

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4571800301		
法人名	医療法人 興生会		
事業所名	押川病院 グループホーム 和		
所在地	宮崎県小林市野尻町東麓1132-9		
自己評価作成日	平成23年2月21日	評価結果市町村受理日	平成23年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4571800301&amp;SCD=320">http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4571800301&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年3月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の方も高齢化されている中で、野菜作り・花作り、特に、昔馴染みの料理では、ちまき作り・こんにやく作り・ゆべし作りと教えてもらう立場をとりながらあらゆることに挑戦してきた。暮らしの中での楽しみごとでは、綾・小林・高原・須木・高岡と名所に出かけ、社会交流・自然交流に力を入れている。地域とのつながりでは、開設以来、月2回道路のチリ拾い、地域貢献としては、公園の掃除に取り組んできた。特に22年度は、趣味で裁縫に力を入れ、文化祭に作品を出品したり、現在はたくさんの作品を玄関に披露している。すばらしい作品に、面会の方も感心されている。又、ボランティアの方に読み聞かせ、ハーモニカ・ぞうり作り・枝もち作りなどの協力を頂き、グループホーム和を知ってもらっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

菜園作りを始めとして、あらゆることに挑戦、試みている。昔ながらの季節の料理作り、社会交流、自然交流を目的とした外出支援、恒例的に隔週行う道路のちり拾い、公園の掃除に組み込み、社会貢献は地域の誰もが認めることである。帰宅願望のある利用者の原因を探り、職員の対応で自立に向かった例があり、その利用者は今では文化祭に縫物を出品するなど、生き生きとした日々を過ごしている。また、裁縫で作ったおじゃみ等を近隣の子供たちにプレゼントしたり、非常災害訓練には地域住民が協力するなど、地域との連携の取組も行っている。職員も手作りのティッシュカバーを利用者にプレゼントするなど、相互一体となった、まさにホームの名にふさわしい和らぎの支援となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を掲げ、実践につなげるよう、努力している。	ホーム独自の理念を自分たちで作り上げている。理念がしっかりと介護現場で現実化されなくてはならないということをみんなが共有・理解し、日々その実践に向け努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会・文化祭・小学校・保育所・郵便局・庁舎・消防署などに訪問して日常的に交流している。消防訓練では隣近の方に協力を得ている。開設以来、月2回道路のチリ拾いをしたり、部区の清掃の際は(年2回)積極的に参加して、事業所自体が地域の一員として交流してきた。	恒例的に行われている月2回の道路のちり拾いや公園の掃除、季節の料理を作って地域へ配布したり、市の文化祭に作品を出品するなど、地域との交流や貢献に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回通信(グループホーム和での暮らしぶり)を、母体病院の待ち合い室、二葉薬局・フレンド薬局に掲示してもらい、地域の方にグループホーム和での暮らしぶりを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。グループホーム和独自のサービスを報告し、助言を頂いた事に対しては、実現に向けてサービスの向上に努めている。	運営推進委員会の参加率を高めるため、夜間帯に開催するなどの工夫をしている。また、職員の全員参加や多くの利用者が家族と参加するなど、有意義な会議となっており、ホームはそこでの意見をサービスの向上に生かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	文化祭・敬老会に参加の際は、地域の方の輪に入れてほしいと伝え、色々な面で協力していただいた。又、グループホームの道路沿いのガードレールをつけてほしいと相談した際も、即整備してもらった。	ホームの要望や協力依頼は積極的に行い、市の対応は速やかに確実に行われている。日ごろからホームがすべきことは行い、要望したいことはお願いするなど、協力関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置しているが、施錠せず自由に入出力ができるようにしている。身体拘束に対しては、「身体拘束ゼロをめざして」のパンフレットを配布し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームの身体拘束についての方針を全員が把握し、それに向け実践している。更に「身体拘束ゼロをめざして」のパンフレットを職員全員に配布し、研修等も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会の資料を職員に分配して、虐待のないよう注意している。又、ミーティングの際にも話をしながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、研修会に参加し、学ぶ機会を持ってきた。復命書などで、全員が周知できるよう努めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書に基づき説明を行い、理解・納得をしてもらうよう努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口へ苦情箱設置。家族の方が面会に見えられた際は必ず声かけし、お茶を出したりして気軽に話ができる雰囲気作りに努めている。又、家族会・運営推進会議の際には、要望を聞いたりして、相談事は真摯に受け止め、運営に反映させている。	利用者やその家族が相談や苦情等が気軽に言える雰囲気作りに努めている。また、遠方の家族には、便り等でホームの生活状況を伝え、問題提起も行って意向の把握にも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り・月1回のミーティングの際に職員の意見を聞く場を設けて、提案を出しながら、多くの意見を聞き入れ一つ一つ上を目指し、運営に反映させている。	職員が気軽に話ができる雰囲気づくりに努め、申し送り時や毎月のミーティングで職員の意見を聞く場を設け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間 なるべく時間内に仕事を済ませ終わるように指導している。全員が質の向上につなげるよう、研修に参加するよう努めた。職員の親睦を図る為に、年2回食事会をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間が許す限り、積極的に研修に参加している。復命書を提出し、職員全員が周知できる仕組みを取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック・びつきよん会に参加し、交流する機会を作ってきた。又、県西ブロック・びつきよん会の勉強会では、母体である院長、理学療法士にも講演をお願いして、同業者と共にサービスの向上につなげるよう協力してきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と相談しながら、本人が困っていることはないか、不安なことはないか聴き取り、ご本人の状態を知るようにしている。入居者基本台帳の作成(既往歴・家族構成・性格・情緒面・生活歴・現状歴)、優しい声かけをしながら、ゆったりとした時間を設け不安を取り除くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にグループホーム和を見学していただき、相談や家族の方が困っていることなどを聴き、入居契約をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設とも連絡をとりながら、その時に応じたサービスの利用ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作り、昔馴染みの料理に力を入れ、喜びにつなげられた。裁縫ではご家族の協力を得ながら、一人ひとりの残存機能を引き出し、支えあう関係作りを築いてきた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	12月は食事会を設け、家族の方に作って貰い一緒に食事を食べてもらうよう工夫している。又、裁縫に力を入れ、ご家族に作品を披露したりして、本人、ご家族と一緒に喜びにつなげるよう努めてきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	里帰り・墓参り・遠出を計画し、回想法につなげるよう、支援している。昔馴染みの料理作りではボランティアの方に協力を得ながら支えてもらっている。また、文化祭・地域の敬老会に参加し交流を深めている。	年2回の彼岸の墓参り、文化祭、買い物、なじみの美容室等で、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。年賀状もなじみの人に送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	野菜作り、馴染みの料理を加えて立て、利用者全員で支え合える支援をしてきた。最近、食事の後片付けも出来る所は、一人ひとりが手を出されて、片付けは利用者だけでされていてグループホームらしい生活を送られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族からの支援は大きい(野菜、新米を届けてくださったりしてもらっている)。又、ご家族の相談に応じたりして、いい関係ができています。数名ではあるが、終了された利用者の方に、クリスマスプレゼントの手作りのティッシュカバーを届け、喜びにつなげる工夫をしている。ボランティアでも協力をもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を聞いたり、又、日々のかかわりの中で、行動・表現から見極めながら検討したりして、利用者の思いを引き出す工夫をしてきた。	帰宅願望の強い利用者の原因を生活歴や回想法等から裁縫に興味があることを把握し、支援につなげ落ちつかれた例がある。現在、その利用者は文化祭に作品を出品するなど、裁縫に夢中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の生活を取り入れ、回想法につなげている。十五夜、一升瓶・ススキ・萩をかざり、一升マスに栗・からいも・里イモを煮て飾りつけた。年に1回は、ハガマ・ナベ道具を揃え、手に触れてもらう機会を設けている。図書館から借りてきて昔の暮らし、昔の遊びも提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、申し送りなどで把握し、一人ひとりのことを十分理解し、優しい声かけに努めながら支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合い、3ヶ月に1回、又、必要時は見直ししながら介護計画を立てている。	心身の状況、要望、環境を踏まえて、職員、家族と話し合い、目標・目標達成するための具体的なサービス内容を記載したプランを作成している。また、必要に応じて見直しもやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄に対しては、バイタル帳で把握し、気づきは申し送り帳を活用し、職員全員が周知し情報を共有しながら、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	里帰り年3回・墓参り年2~3回・月1回定期受診・外泊支援		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食・りんご狩り・ぶどう狩りに出かけたり、又、社会交流では、綾・小林・須木・高岡・高原に出かけ、暮らしの中で楽しみごとにつなげる努力をしてきた。昔馴染みの料理、ぞうり作りは、ボランティアの方に積極的にお願いしてきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である押川病院で適切な医療を受け入れられる体制にある。歯科受診は、本人ご家族の希望された医療機関に受診させている。	協力医が地元密着のため、そのまま掛かりつけ医となっており、体調管理、急性期時にも対応してもらえる体制になっている。本人及び家族の希望と納得が得られた掛かりつけ医となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院と密に連絡ができるている急変時は、即、院長又看護師に来てもらう体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他病院へ入院の際は、情報提供を持参している。面会も頻回に行き、ご家族と話し合いをしてきた。母体病院に入院の際は、2～3日おきに体調変化の情報ももらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合い、全員で方針を共有している。重症化の方に対しては、院長・介護者の取り組み方を、別表に作成し、医師からのムンテラ、ご家族の要望を重視し、計画的に支援をしてきた。	ホーム独自の看取りの指針が的確に作成されている。その中で生前の意思を最大限に実現させることが尊厳を守ることと明記されており、家族、医師を含め全員で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は、ミーティングで実施し、皆で共有している。心肺蘇生法受講者2名、勉強会にも職員全員積極的に参加し、知識を身につけた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練には、隣近の方に協力もらって実施している。(年1回)それ以外に、職員全員で消防訓練、地震に備えての訓練を3ヶ月に1回、計画的に取り組んでいる。利用者一人ひとりの非常用備品袋を準備している。(衣類・食べ物など)	地域住民も含めた消防訓練や3か月ごとの利用者も含めた避難誘導訓練、毎月の外部点検等をホーム独自で実施している。訓練記録、マニュアル等も整備され、非常災害に備えた備蓄もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を損ねるような言葉には細心の気くばりをしている。又、ミーティングの時には、再々、取り上げて指導している。	人格を損ねるような言葉には細心の気配りをするよう指導している。書類等の文章もあらわにならないようにし、書類の保管や持ち出し時の守秘管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声かけしながら、希望を聞いたり昔馴染みの料理に挑戦している。嗜好調査を2ヶ月1回、食べたい物を聞いたりして提供してきた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく、喜びにつなげるよう、一人ひとりのペースに合わせて支援している。特に朝食は、3～4回段階に分けて提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室を利用している人2名、他の利用者の方については、ホーム側より散髪・髪染め(2ヶ月に1回)を支援してきた。朝は、鏡を見ながら整髪を行ってもらっている。普段から、おしゃれされるよう、気配りしてきた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を2ヶ月に1回施行し、希望を活かせるよう努力してきた。又、利用者の方が一番活気のある昔馴染みの料理を提供している。自由に厨房に入れ、つけ物漬け、酢物を作ったりされ、時には、お茶うけを自分達だけでされている。食後の茶碗洗い・お盆拭き・消毒、全て利用者だけでこなされている。野菜作りは、利用者・職員で作っている。	食事に関する好みの調査を行い、希望をとり入れた食事となっている。散歩等で摘んだ山菜を天ぷらにし、職員も含め昼食でいただき季節感を味わっている。料理は利用者に合わせて食べやすいように工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	すべて手作りを提供。ミキサー食、刻み食とその人に合った食事を工夫し提供している。水分補給は、1日6～7回、夏季はホールにキーパーを設置。各自のコップ揃えて、いつでも飲めるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがき、毎食後支援 常に清潔に二次感染防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方1名(癌末期の方)。皆で話し合い、なるべくオムツを使用しない方針で支援している。日中は、6名の方をホールのトイレで介助をしている。	職員が利用者の言葉やサインに注目し、状況を把握してトイレ誘導を心掛けている。おむつをしない暮らしに利用者が自信を取り戻し、表情が豊かになっていく状況を踏まえ、基本的におむつをしない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック表に基づき、水分補給・運動の働きかけしながら、職員全員が周知できる仕組みをとり、すっきりした排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴週3回 夏季は、夜間入浴(希望者)。また、デイケアの大浴場を借りての入浴支援 3月~4月は、家族の許可をもらったので、ゆ~ぱる温泉も予定している。	ホームの浴槽は個浴であるが、併設施設の大浴場を利用し、温泉気分にも浸ることもある。また、外部の温泉に出かける楽しみもあり、夏季には夜間の入浴等を実施するなど、本人の希望に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、各室で安眠、休息を支援してきた。日中、見守りを要する方には、たたみの室で、冬はコタツ、夏場はゴザを使用し、休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬入れ箱を設置し、必要時に服用させる薬を前の方に付け、日付を入れて確実に飲まれる工夫をしている。職員は、薬の説明書も目を通し、内容確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り トマト・スイカ。南瓜・ゴウヤ等まで、利用者さんと作っている。収穫時期には、皆さん大喜びされた。花植えも、利用者さんをお願いして植えている。最近、裁縫に取り組まれて出来上がりの作品を玄関に披露している。これは大きな収穫である。帰宅願望・尿失禁が全く消失されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社会交流で22年度は、綾・高原・小林・須木・高岡とあらゆる名所に出かけた。「初めて来た、どうぞ連れて行ってください」と、利用者の方の満面の笑みがいっぱい見られた。又、家族も通信など見られて感謝して下さっている。夜間、イルミネーション見学とか外食支援をしている。	日々の外出支援はもとより、年間を通じて社会交流、自然交流を目的とした外出支援が実施されている。また、イルミネーションを見に行くなどの夜間外出も試みており、重度の方も含めさまざまな外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ぶどう・リンゴ狩りで孫に土産と買い物されたり、茶屋に立ち寄り好きな物を買うことができるように支援もできた。又、近くの店に出かけ買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて対応している。手紙の支援では、遠方の息子さんに月1回程度文通の支援してきた。又、地域の方、家族の方に年賀状・暑中見舞いを企画し、取り組んできた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室に、温度計・湿度計設置している。玄関は、すべて手作りにして心和む飾りつけを配慮してきた。ホール内も常に整理整頓して、テーブルには、いつも花を生けてもらったりして、心地良い生活を送ってもらっている。	玄関は観葉植物が飾られ、来客を心から迎え入れる雰囲気がある。玄関ホールや生活の場でもあるリビングは、利用者の趣味や特技の物が置かれ、みんなが和める空間となっている。職員の声のトーン、照明、採光、におい、温度等、違和感無く過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでゆったりとテレビ見られたり、音楽を聴いたりして思い思いに過ごされている。できる方は、洗濯物たたみ、みそ汁の具を切ったり、裁縫されたりして過ごされている。最近では、車椅子の方をトイレに連れて行って下さったり、職員が見守りの中でお茶を飲ませたり、食事介助までされ、支え合いながら日を送られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、時計・カレンダーを置き、なるべく今まで使用されていた。道具を持って来て頂くようお願いしている。趣味で使用されていた裁縫道具、布は昔着られていた着物まで持って来ていただいたりしている。	各居室にはトイレや温度計、湿度計が設置され、きめ細かな体調管理やエネルギー削減の取組もなされている。みんなに支えられ、勇気にもなっている家族の集合写真等や時計も置かれ、なじみの連携が持続された安心感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全な日々が送られるよう、シルバーカー・歩行器を揃えて支援をしている。居室には表札をつけたり、風呂場もノレンは手作りし、目安になるようにした。1名であるが、居室にノレンを縫ってもらい使用されている。		